Vol.66 Summer

SAKUYO GAKUEN NEWS

作陽学園報

くらしき作陽大学／作陽音楽短期大学／岡山県作陽高等学校

平成26年3月に図書『創立者　松田藤子先生の教え－智慧と慈悲の教育－』が作陽学園出版部から発刊され、ご好評をいただいております。本書のご紹介・ご案内はP2をご参照ください。

■図書のご案内
『創立者 松田藤子先生の教え－智慧と慈悲の教育－』…2頁
■「作陽学園の昨今」…3頁
学校法人作陽学園
理事長　松田英毅
■「音楽を活かす」……4頁
音楽学部長　吉田一成
■「「教育の王道」を歩きたい～第28回管理栄養士国家試験を終えて～」……5頁
食文化学部長　山下静江
■「ホップ、ステップ、そしてジャンプ!～子ども教育「作陽ブランド」の確立～」……6頁
子ども教育学部長　高橋香代
■「皆さまに音楽をお届けしたい！新たな取り組みの大学院音楽研究科」……7頁
くらしき作陽大学大学院
音楽研究科長　竹内京子
■「合い言葉は『With You』」…7頁
作陽音楽短期大学
音楽学科長　上甲廣文
■「岡山県作陽高等学校」
……8～9頁
■新任教員紹介・退職教員紹介
…… 10頁
■「更なる充実を目指して」…11頁
くらしき作陽大学附属幼稚園
副園長　妹島三絵
■学生募集について ……12頁
■鶴声会だより・翠会だより・作陽高校同窓会だより…13頁
■平成25年度決算について
……14頁
■演奏会のご案内……15頁

発行所
学校法人作陽学園
岡山県倉敷市玉島長尾3515　TEL.086・523・0888（代）

夢に向かって新たな一歩

桜の見頃を迎えたキャンパスで４月３日、平成26年度 くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学・大学院の入学式が執り行われ、総勢398名の新入生を迎えました。

松田英毅学長による式辞の後、新入生を代表し食文化学部栄養学科の川端真菜代さん（香川県出身）が、人格の向上と学術の研修に精励することを宣言しました。

『創立者松田藤子先生の教え－智慧と慈悲の教育－』のご案内

本誌「作陽学園報」にて卒業生の皆さまの記憶に残る松田藤子先生の教えを募集させていただきましたところ、多数のご寄稿を賜りました。お陰さまで本号の表紙写真の図書『創立者松田藤子先生の教え－智慧と慈悲の教育－』を発刊することができました。関係の方々に厚く御礼申し上げる次第です。

当学園は、大乗仏教の教義に由来する宗教的情操教育を行うことを建学の精神として松田藤子先生（写真）が創立したものであり、爾来84年の間、宗教的情操教育が続けられてきたところでありますが、『創立者は何を願われ作陽学園を創立されたのか、教えはどんなものであったのかを知りたい』、そのような声を多く聞くようになりました。

そこで、松田藤子先生の教えを正しく伝えるために、有縁の方々からいただいた文章のほか創立者の教えの語録や著された教科書（抄）、宗教教育で用いられた仏典等の資料や創立者の仏教実践の善知識でありました住岡夜晃先生の法話なども集録し創立者の思い・願い・教えを明らかにする冊子をとりまとめ図書として上梓させていただきました。

松田藤子先生は智慧と慈悲の宗教的実践と真実愛の訓育に生命を捧げてゆかれ約2万数千人の教え子たちの人生に大きな影響を与えておりますが、本書に綴られているその教えの今日的意義は少しもゆるぐことなく今も燦然と輝いています。悩んでいるときや迷ったとき、安らぎと幸せを求めるとき、人生の生きがいを求めるとき、藤子先生の教えはきっとあなたの人生の指針となり杖（つえ）となることでしょう。座右の書として本書をお勧めいたします。

図書お申込み窓口：くらしき作陽大学　事務局　総務室
電話（086)436-0274　FAX（086)523-0811
〒710-0292　岡山県倉敷市玉島長尾 3515
頒布価格：1,458 円（税込・送料別）

作陽学園の昨今

理事長
松田英毅（まつだひでき）

作陽学園は平成になってから大学の移転という大事業を行いました。津山から当時の作陽音大と短大音楽科を倉敷の現キャンパスに移転し、津山にあった短大の家政学科、幼児教育学科と岡山市矢津にあった情報処理学科を改組し、食文化学部を創設し、続いて子ども教育学部設置にいたったのでした。これは日本の少子高齢化社会の到来に対応したものでありました。幸いにも津山市の方々のご理解と倉敷市の絶大なご支援、更に卒業生の皆さんの元気な活躍に後押しされ、倉敷市玉島の地に根をおろし着実に発展しつつあります。

音楽学部、短大音楽科の学生の夢は、主にプロの音楽演奏家になり演奏で聴衆を魅了することであり、学校で、中学生あるいは高校生と一緒になり音楽を通して生徒を元気づけ、社会を明るくしようと考えています。数多い演奏会に出演し素晴らしい音楽を披露し、教員の採用試験にも頑張っています。両分野とも非常に狭い門ですが、昨年度の卒業生は教員に11名、演奏家に４名が就職しています。就職率は一般企業などを含め91％です。

移転翌年にスタートした食文化学部は、栄養学科中心におよそ百数十校ある管理栄養士養成校の中でもその名も全国に知らしめています。同様の学校と同じ国家試験を受験し、合格者を常に60～80名の多くを出し、全国で常に上位を占めています。また現代食文化学科も栄養士実力認定試験ではA認定となっています。就職率は96％です。

子ども教育学部は昨年度公立の幼稚園・保育所・小学校等への就職者は19名であり、専門職への就職は81％と大変良い成績（全体の就職率は98％）でありました。今の学校で強く求められている特別支援教諭の養成では、西日本でも数少ない学校の一つです。

高校は文武両道を目指しているところですが、進学の方は年々力をつけています。スポーツはサッカー（男、女）、柔道、ゴルフが例年と同様に頑張って全国に名を知られる成績を上げています。今年は特に卒業生の青山敏弘さんがサッカーのブラジルW杯の日本代表に選ばれたことは、卒業生はもとより学園関係者の誇りでもあります。同じように、近年卒業生の全国的活躍が注目されています。高校野球解説の早瀬万豊さん、テレビドラマ「八重の桜」で新島襄を演じたオダギリジョーさん、マンガNARUTOの作家岸本斉史さん、女子プロゴルファーの藤本麻子さんなどです。それぞれの分野で作陽精神を発揮されていますことはこの上なく喜ばしいことです。

作陽学園の卒業生に大事にされているものは、在学中に養われた「念願は人格を決定す　継続は力なり」の精神でありましょう。創立者松田藤子先生から直接に教えを受けた人たちの思いが、最近発刊しました「創立者松田藤子先生の教え」から力強く伝わってきます。

半世紀前と時代は大きく変わり、社会は見違えるほど発展してきました。物はあふれ、経済的にも豊になり、便利で快適な世の中になりました。反面、人間の煩悩の造り出す地獄の様は今も昔も変わりません。それどころか地球規模に拡大し、あるいは神仏の領域に及ぼうとするものさえあります。今日の現代文明と地獄を創りだした知識と技術に偏った教育ではこれらの解決は不可能であり、創立者の言われた慈悲と智慧の教育がこれに当らねばならないと思うのです。

今こそ創立者の教えである菩薩の精神を世の中に広めることが作陽学園の使命であると思います。このようなことから、創立者松田藤子先生の歩まれた道、教えを明らかにし、自利利他の菩薩の道を歩み、世の為、人の為に尽くし、人生が逆境にあっても、そこに恩寵を見いだし、感謝と歓喜の世界に住する人のために松田藤子記念館（仮称）の設置を企画し、進めています。どうぞご期待ください。

「松田藤子記念館」（仮称）イメージ図

音　楽　を　活　か　す

音楽学部長
吉田一成（よしだいっせい）

喜ばしいことに、音楽学部は創設50周年を迎えようとしています。この間に作陽で育った音楽人はおよそ7,000名。その人材養成機能の高さと確かさは、国内外の優れた演奏家や教育者の活躍としてあらわれています。これを支えているのが「念願は人格を決定す　継続は力なり」と教える作陽の精神です。この理念のもと、音楽学部は「一人ひとりの音楽を活かす」活動を展開しています。

新たに音楽学部の最高顧問としてお迎えした作曲家の池辺晋一郎教授は、作陽の音楽教育のあり方について、「良い先生、良い友人、良い施設や日々の良い組み立てかた」を備えた「音楽環境」のなかで「音楽に浸る」ことで、一人ひとりが「自分の音楽」を見つけ、高みへの道をたどることが可能になるのだ、と説かれます。

長くヨーロッパで活躍された森悠子教授（Vn.）も、学生個別の潜在能力を発掘してそれを磨く達人。作・編曲にも優れた才能を合わせ持つM君、著名なコンクールで高い評価を得ているN君、他大学を卒業した後に音楽教員を志して作陽に入学し、現役で教員採用試験に合格したK君。森教授は彼ら一人ひとりの内に潜む才能を引き出し、高いレベルにまで育て上げられます。同教授が音楽監督を務めておられる長岡京室内アンサンブルが、ベルリン・フィル八重奏団、イ・ムジチ合奏団などと名を連ねて世界のベスト11位にランクされたことは、その音楽性と指導力の高さを示す証といえましょう。（「音楽の友」2014年04月号 p.58）

作陽の「音楽を活かす」活動は学外にも及んでいます。

ユーリ・スレサレフ教授らモスクワ音楽院特別演奏コースの教授陣には、北海道、東京、鹿児島にいたる全国各地から演奏会や公開レッスンの依頼が相次いでいます。他の2つのコース（演奏芸術、教育文化）の教授陣もまた、演奏系・理論系を問わず、西日本各地の学校やレスナーあるいは卒業生からの依頼に応えて訪問演奏や公開講座を開いています。なかでも注目すべきは「吹奏楽クリニック」。ここ数年で陣容をさらに強化した管打楽器陣は、吹奏楽指導者の強い要請を受けてミニ・コンサートやクリニックを展開しています。今年もすでに高知会場（700名）、高松会場（500名）で、選抜された優秀な在学生諸君とともに卓越した音楽力を披露し、そのきめ細かな指導とあわせて感嘆と感謝を集めています。

こうした指導陣の薫陶を受け、自ら研鑽を積んで「自分の音楽」を磨いた同窓生諸氏の活躍も枚挙にいとまがありません。国内・海外の著名な交響楽団や音楽団体で活躍する演奏家はもとより、中学校や高校の音楽教員として活躍する卒業生も数多く、特に吹奏楽の領域ではいわゆる「上位常連校」の指導者も少なくありません。彼ら卒業生の活躍は広く学内に語り継がれ、作陽の誇りとして学生諸君の研鑽の糧となっています。

平成27年の春、作陽にはまた新しい風が吹きます。「幼児期からの音楽教育」を標榜する新たな教育課程の導入です。これにともない短期大学には「幼児教育専攻」の設置計画が構想されています。

「音楽を活かす」との理念のもと、作陽の音楽は更なる活性化と進化を遂げようとしています。

吹奏楽クリニック

一人ひとりの音楽力を活かすきめ細やかな指導

高松会場：長瀬准教授

高知会場：菅付准教授

高松会場：学生講師

高知会場：学生講師

モスクワ音楽院教授陣による音楽活動

教授陣による全国各地での演奏会や公開レッスン

ヴァチェスラフ・グリャズノフ特任講師

ユーリ・スレサレフ特任教授

アレクサンドル・ヴェルシーニン特任准教授

アンドレイ・ジェルタノク教授

「教育の王道」を歩きたい
～第28回管理栄養士国家試験を終えて～

食文化学部長
山下静江（やましたしずえ）

食文化学部栄養学科第９期生は平成26年３月23日に第28回管理栄養士国家試験を受験いたしました。合格発表は５月９日でした。本大学の結果は70名の受験者で60名の合格者でした。私たちは全員の合格を期待していましたが結果として10名の不合格者が出ました。本学科における管理栄養士教育への取り組みは専門職業人としての管理栄養士の資質を備えた人材の育成にありますが、どんなに人間的に優れていても国家試験制度がある以上合格しなければ管理栄養士の免許を保有することは出来ません。食文化学部では学科を超えて教員一丸となって全員の合格を願って最後まで本人の伸びる力を信じて学習支援してまいりましたが本年は以上の結果となりました。今回、この学園報の紙面をお借りして第28回管理栄養士国家試験受験者への手紙を書かせていただきたいと思います。

不合格だった方へ

お元気ですか？　3月に卒業されてからはや2ヶ月余が過ぎましたがいかがお過ごしでしょうか？

新しい生活に向かってそれぞれの道で励んでおられることと拝察いたします。

去る５月９日に発表された第28回管理栄養士国家試験では合格を目指して勉強に励まれたことと思いますが力及ばず残念な結果でした。しかし、もしあなたがしっかりと国家試験を意識した取り組みで学生生活を送られたと思われるなら「結果は決して悪いばかりではない」と思いますよ。勝つことの次にいいことは一生懸命にして負けることだともいいます。次に、頑張るチャンスが与えられましたね。

そこで、本日はこれからも国家試験に再挑戦しようとしている方の国家試験対策支援についてご案内いたします。

食文化学部では卒業生の国家試験受験を支援するために委員会を作り希望者に対して受験の支援をします。

委員会の支援は、①　現代食文化学科、食生活学科既卒者（実務経験1年以上の国家試験受験有資格者）、②　栄養学科国家試験再挑戦者を対象として、情報提供などの支援を実施しています。

特に、国家試験ガイドラインおよび受験資格の見直し等が行われ、問題形式・内容が年度ごとに変わっていますので、次年度国家試験に挑戦しようと思っておられる方はぜひ支援を受けて力をつけてください。在学中に勉強するよりも仕事をしながら勉強を続ける事は骨の折れることとは思いますが、1日1日をカレンダーの日付を消していくように在学中の復習を繰り返しながら知識を確かなものにしてください。そうすれば必ず合格すると思います。

「意志あるところに道あり」です。母校はあなたの勉強を心から応援しています。支援希望者に対する情報提供のための担当は大野婦美子先生です。希望される方はご連絡ください。

合格の方へ

お元気ですか？　3月に卒業されてからはや2ヶ月余が過ぎましたがいかがお過ごしでしょうか？　新しい生活に向かってそれぞれの道で励んでおられることと拝察いたします。

去る5月9日に発表された第28回管理栄養士国家試験合格おめでとうございました。心からお喜び申し上げます。あなたの受験番号を合格者番号で見つけたときの喜びは、私たち教員みんなの「無上の喜び」でした。来る日も来る日も「管理　管理」と、時には挫折しそうな苦しい勉強の日々だったことと思います。模擬試験の結果に落ち込んでいる人を見かけると心から「がんばってね。きっと大きな喜びが待っているからね」と声をかけたいと思うときもしばしばありました。これが「管理栄養士という国家資格を免許」として得るための当然の基礎的知識・技術なのです。あなたたちの「心と身体」を気遣いながらの最後の1年でもありました。それでもがんばっているあなた方の姿は輝いていました。そしてきっと合格大丈夫だろうとの期待が持てたのは3月になってからでした。卒業式もあわただしく中2日後には国家試験！試験日当日の手ごたえありそうなあなた方の顔はまぶしいくらいでしたよ。心から「おめでとう」を、何度でも言いたいと思います。大学全体であなたの合格を大変喜んでいます。しかし、これからが大変です。国家試験は管理栄養士への入門にすぎません。家にたとえるならば玄関に入っただけです。この家という管理栄養士の仕事をどう間取りを作ってどのように「住む」かは、あなたのこれからの「力量」にかかっています。今、専門職についている方はこの国家資格に値する仕事ができるよう日々精進してください。かかわっていない人も有資格者として恥ずかしくないよう、ご自分の周りの人も巻き込んで健康増進ができるような生活をしてください。社会人として仕事はそんなに生易しいものではありませんが「大きな荷物」ほど、あなたを大きな人間にしてくれます。この喜びをばねにしていっそう精進してくださいますことを願っています。

また、仕事をしていく中で誰にも相談できずに悩むこともあると思います。そういうときは母校に来て話してみてください。先生方は皆さんを温かく迎えてくださいます。どうか、よい日々が送られますよう心からお祈りしています。

平成２６年5月27日

山下　静江

原稿執筆と学園報の出版時期がずれますことをお許しください。

ホップ、ステップ、そしてジャンプ！
～子ども教育「作陽ブランド」の確立～

子ども教育学部長
高橋香代（たかはしかよ）

平成20年に設置された子ども教育学部は、今年で７年目を迎えます。発足時、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の養成を目指してスタートし、平成21年度には特別支援学校教諭の免許が取得可能となり、子ども教育に関する専門職の４大免許が取得できる学部となりました。発足直後のホップの時期です。平成25年度には、小学校・特別支援学校コースと保育園・幼稚園コースの２コース制を敷き、このステップアップの年に、私は学部長として赴任しました。赴任して、教職員が音楽教育、特別支援教育、そして子ども教育学部附属部活動「ぱれっと」などの特色ある教育活動を築いていることに敬服しました。また学生たちが素直で真面目で、なにより子どもたちにすっと寄り添うことができることが魅力的でした。ただ、教職員の努力は個人個人の思いに負うことが多く、組織性とか計画性は不足気味のように思いました。学生たちも、主体的に学ぶというよりは、何でも教えてもらおうとしている様子が見うけられました。

平成25年度のステップアップの年は、教職員は組織的計画的に教養教育・専門教育・キャリア教育の充実を図ることを、学生は専門職として誇りを持って自ら学ぶことを目標にしました。そのことが、平成26年度からの４年一貫のキャリア教育科目の設定と、その中で地域のフィールド活動をより充実させて、学生自身が自ら学ぶことの成果を実感する取組の計画につながりました。11月に開催した中国・四国保育学生研究大会で、学生スタッフが主体的積極的な動きを見せてくれた時には、本当に感激しました。

平成26年３月に卒業した３期生の５月１日現在の就職状況は、小学校教員が18名（11名：正規採用、７名：講師）、特別支援学校教諭が８名（１名：正規採用、７名：講師）、公立幼稚園が５名（１名：正規採用、４名：臨時）、私立幼稚園が14名（13名：正規採用、１名：臨時）、公立保育所が９名（６名：正規採用、３名：臨時）、私立保育所が23名（20名：正規採用、３名：臨時）、社会福祉施設６名、一般企業10名でした。公立の正規採用者は、あわせて19名20％（小学校11、特別支援１、幼稚園１、保育所６）です。１期生の39名（就職率65％）、２期生の40名（就職率77％）に比べて、３期生では専門職への就職率が81％、公立の正規採用者が20％と量だけでなく質も向上して、学生の成長に手ごたえを感じることができました。

平成27年度には、保育園・幼稚園コースの入学定員を80名から120名に変更します。子ども教育学部の入学定員は150名となり、スタート時の倍近くとなります。まさに、子ども教育学部はホップ、ステップの段階をへて、そしてジャンプの年を迎えようとしています。ジャンプとは、単に入学定員を増員することではありません。特別支援教育の力量を一層身につけるための演習科目の設定、音楽教育・造形・児童文化・食育等を通して子どもたちの五感力を育てる保育内容科目の充実、実践で鍛える小学校「外国語活動」のための英語力育成等一歩進んだ特色ある教育課程を開発して、子ども教育に関する専門職養成の「作陽ブランド」を確立することが、ジャンプすることだと考えています。卒業生ならびに学園の皆様の一層のご支援・ご協力をお願いします。

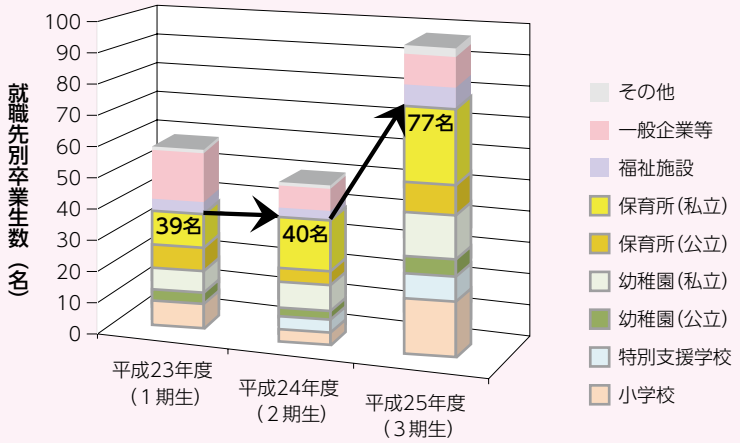


図１　就職先別卒業生数の推移

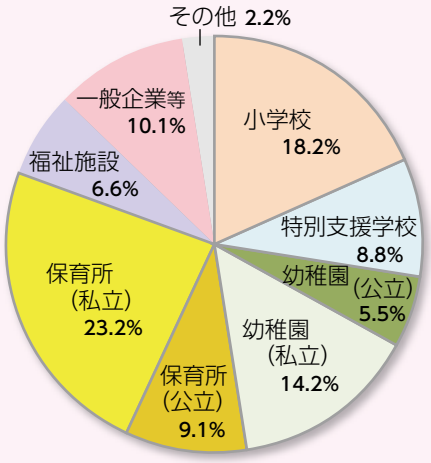


図２　3期生の就職先別割合

『皆さまに音楽をお届けしたい！ 新たな取り組みの大学院音楽研究科』

大学院
音楽研究科長
竹内京子（たけうちきょうこ）

皆さま、お元気でいらっしゃいますか。お蔭様で、大学院音楽研究科の１、２年生16名とともに、私たち教職員も元気に新年度の活動をスタートさせております。

新入生の専攻内訳は、【演奏芸術領域】ピアノ３名、声楽（テノール）１名、トロンボーン１名、【教育文化領域】音楽デザイン２名、【音楽文化領域】ピアノ１名の合計８名です。

嬉しいお知らせがあります。音楽デザイン専攻の梁 雯凱氏（倉敷市守屋奨学生）が『インターネットを用いたマルチメディアに関する研究』を研究テーマとして、演奏芸術センターとタイアップした活動に取り組まれております。本学を中心に行なわれる演奏会などのイベントの様子を、皆さまの元へお届けできるようになりました。現在、土居里江准教授のピアノリサイタルの模様がYou Tubeでお楽しみいただけます。Googleで「土居里江　YouTube」と検索して、ご視聴お楽しみください。

また、恒例となりました『大学院サマーコンサート』ですが、８月５日㈫13:30より、３号館聖徳殿で開催いたします。こちらもどうぞご来場をお待ちいたしております。

合い言葉は『With You』

作陽音楽短期大学
音楽学科長
上甲廣文（じょうこうひろふみ）

四月は桜、五月はハナミズキ、今はシャクナゲが真っ盛り。

今年も34名の若者を新入生として迎え、平成26年度が揚々とスタートしました。

長年にわたって短期大学を牽引された丹代音楽学科長の後任としてまる三か月が過ぎ、その責任の重さに気を引き締める毎日が続いています。

本年度、短期大学では音楽学科の重点目標として「Only One」を掲げ、取組上の合い言葉に「With You」を添えることにしました。「Only One」の一つ目は自利・利他の精神にあふれる短期大学士、二つ目は作陽で学び一人の音楽人として自信と誇りを備えた短期大学士です。私たち教員の使命は「Only One」の養成にありますが、日々の学生生活がより充実し満足度100％となるよう、学生の心に寄り添う教員集団を目指して「With You」を合い言葉としています。

夢は叶えるもの。夢は自分自身の努力でつかみ取るものですが、学問や表現活動は極めれば極めるほど奥が深くなり、夢追い人にはより強い忍耐力と精神力が求められます。

「With You」の言葉には、そんな若者を愛し、叱咤激励を滋養強壮として二年間を支え続けたいという私たちの決意が込められています。

平成27年度には音楽学科が音楽専攻と幼児教育専攻に分離する予定で現在その準備作業中ですが、幼児教育専攻では教員養成の理念を「音楽に関する豊かな感性と専門的知識・技術、保育・教育に関する確かな専門性を備えた幼稚園教員を養成する。」としています。新たな転換点を迎える作陽音楽短期大学として、学生と教職員があふれるエネルギーと英知を出し合い、互いに相容れ合う中で協調し確実な一歩を踏み出したいと願っています。

ワンランク上の充実感と満足度
―Revolution[改革]＆Development[発展]―

岡山県作陽高等学校

岡山県北・津山・全国に愛されて84年　社会を正しく生き抜くことができる真の人間力の育成

校長　『高みを目指して着実に！』

校長　松野　英雄

本校は、1930年の創立以来84年間、創設者である松田藤子先生の建学の精神である「念願は人格を決定す 継続は力なり」を校訓として、「社会を正しく生き抜くことのできる真の人間力の育成」を目標に、社会に有為な人材を輩出してきました。

昨年度、「進学」では、筑波大学、大阪教育大学など国公立大学４名をはじめ関西圏の同志社、立命館、関東圏の慶応など私立難関大学へ多数の生徒が合格しました。

「就職」では、JリーガーとなるFC東京への入団や㈱山田養蜂場など、30名の生徒が就職しました。

「スポーツ」では、柔道部・男子の全国高校総体における２年ぶりの団体準優勝、春の全国高校選手権での男子個人90kg級・準優勝をはじめ、女子サッカー部の全国高校総体での３位入賞、ゴルフ部の全国高校選手権春季大会での男子・個人２位、女子・個人５位入賞など練習の成果を遺憾なく発揮し、昨年度も全国に「作陽」の名を広めてくれました。

また、伝統の「音楽」では、第16回日本ジュニア管打楽器コンクールのソロ部門トランペット演奏で２年生男子が第２位に、更には、音楽デザイン１年生男子が自ら編曲・レコーディングを行った社歌を津山市に本社があるホームセンターへ寄贈するなど、素晴らしい成果を収めています。

学園の一員である作陽高校のこうした成果を今後とも継続するとともに、更なる高みを目指して着実に歩み続けてまいりますので、ご支援とご協力をお願いいたします。

©サンフレッチェ広島

サッカーW杯ブラジル大会の日本代表選手として本校卒業生の青山敏弘選手（サンフレッチェ広島）が選出されました。その際には、多くの方々からお祝いのお言葉をいただき本当に有り難うございました。心から御礼を申し上げます。

教頭　『充実した高校生活を』

教頭　神田　寿則

この３月に卒業生171名を無事送り出し、新たに、４月には207名の新入生を迎えることができました。二つの式を見て感じたことは入学式に対し、卒業式では三年間の高校生活で大きく成長した生徒の姿が印象的でした。それに対し、入学式では新入生の眼には輝くものがありましたが、まだ、幼さが目立つようでした。この新入生が三年後には人間的に大きく成長し、社会に貢献できる人となり、本校を巣立つ事を楽しみに、私たち教職員も精一杯の力で支援をしていく所存です。

本校は専願での入学者が多く、目的意識を持って入学しており、学校としても生徒一人ひとりの目標が達成できるよう教職員一丸となって指導に努めています。生徒が満足して学校生活を送るためには教職員の支援はもちろんですが、生徒一人ひとりが最後までやりきることが大切です。一日一日を大切にスポーツや勉強を頑張ることにより、満足した高校生活を送ることができます。しかし、三年間の学校生活では山あり谷ありで苦しいことも多々あることでしょう。苦しいことも自分を鍛えてくれる場と考え、乗り越えてもらいたいと思います。W杯日本代表メンバーとして選ばれた卒業生の青山君も、自分ではどうしようもない幾多の試練を乗り越え今があります。試練に立ち向かうことは、結果はどうであれ、必ずや人間として一回り大きくなることと確信しています。卒業時に作陽高校に来てよかったと思えるよう、全力を注いで行きますので、皆様方にはいろいろとお力をお借りしますが、今後ともよろしくお願いいたします。

事務長　『高等学校における特別支援教育』

事務長　高井　保昌

２年目を迎えた事務長の高井です。本年度もよろしくお願いします。

さて、今年２月23日㈰に開催された「平成25年度岡山県総合教育センター研究発表大会」に、本校の養護教諭と参加しました。午前中の全体発表会では、「児童生徒の学力向上」「児童生徒の問題行動」「特別支援教育の推進」という本県の教育が抱えている大きな３つの課題をテーマに研究発表がなされました。今回は、その中の一つ「高等学校における特別支援教育」について報告したいと思います。

岡山県教育委員会の調査によると、県内高等学校における特別な支援を必要とする生徒の割合は、平成20年度では、全体で1.9%、全日制で1.2%、定時制で13.8%であったものが、平成24年度調査では、全体で3.2%、全日制で2.1%、定時制で24.0%と大幅に増加しており、発達障害を含む特別な支援を必要とする生徒に対して、学習や生活面で適切な指導・支援を行うことが強く求められていることが明らかになりました。こうした状況の中で、これまで高等学校ではどのような対応をしてきたのでしょうか。県教委は平成19年度から「高等学校発達障害支援事業」がスタートし、これまでに県内公立高校66校の全てで実施されました。こうした事業の成果もあり、校内委員会の設置や特別支援教育の学校における中心的役割を果たすコーディネーターの指名は100%に達し、支援体制の整備や障害特性に関する教職員の理解も進んできました。しかし、校内体制の整備や理解の促進だけで高校での特別支援教育がうまく機能しているかというと、未だ不十分であると結論付けています。

高等学校は、課程が全日制、定時制、通信制と分かれていることや、学習内容面で、普通科、職業学科、総合学科と多様であるため、小・中学校のように画一的な特別支援教育の充実に向けた取り組みだけでは不十分で、今後は、それぞれの課程や学科の実態、学習形態や指導上の課題等、よりきめ細やかな取り組みが必要であるとの発表がありました。

本校においても年々特別な支援を必要とする生徒は増加する傾向にあり、学級担任も教科担任もその指導・支援に苦慮しているのが現状です。また、本校では担任や養護教諭と連携した、教育相談室を設置し専任職員を配置していますが、学習指導面や進路決定などについては、未だ十分とはいえない状況です。

本年度、岡山県総合教育センターでは、「高校における課題に対応するためのハンドブック」の研究を進める予定で、これの完成を期待するとともに、アセスメントシート等を用いた気になる生徒の実態把握から取り組むべきではと思う今日この頃です。

1年生 『1学年の運営方針』

1学年主任 松本 賢治

新入生宿泊研修（吉備少年自然の家）

北は秋田県から南は沖縄まで様々な地域から男子生徒120名、女子生徒87名、計207名の生徒が希望を抱いて本校に入学してきました。入学してまもなく１泊２日の宿泊研修を行い、野外炊事、レクリエーション、クラス活動、オリエンテーリングを通して仲間と交流し相互理解をすることができました。これからのクラス活動、部活動の中で共に喜び共に泣き本音を言い合える生涯の親友を作ってほしいと思います。

３年後の進路を実現するために、授業を大切にすることはもちろんですが、まずは基礎学力の向上を目指し、語彙読解力を高めるための課題、漢字、英単語、数学などの課題をこなすことでコツコツと努力を重ねる事の大切さやわかる喜びを知り、学習習慣を確立させて、学力を高めていきたいと考えています。また、将来の目標を早く決めるために適性検査や進路ガイダンス等も計画しています。

学校での様々な活動を通して、感謝の心と利他の精神を持つ心豊かな人間性が育めるように１年団の教員一同全力で取り組みます。

2年生 『2学年の運営方針』

2学年主任 釈野 昌稔

春の遠足（国営美北丘陵公園）

昨年入学した生徒たちも、授業、部活動そして学校行事を通していろいろなことをこの学校生活で学び、無事進級をすることが出来ました。そして２年生となり、多くの生徒が心新たに、頑張ろうとしている姿が見受けられます。これから日々の学校生活の中で生徒たちは一喜一憂しながら過ごしていくことでしょう。しかし学年が上がっても、来年の自分の進路決定を見据えた準備や努力をしていくことには変わりはありません。そして社会に出て困らない自分作りをしていくためにも、生徒たちには命を大切にし、規則正しい生活を送り、感謝の気持ちを持ちながら夢や目標に向かって継続して頑張る大切さを教えて行きたいと思います。そのためにも昨年同様、２学年教員は生徒の思いに寄り添いながら、指導して行きたいと思います。

3年生 『3学年の運営方針』

3学年主任 戸田 陽一

進学説明会（本校会場）

いよいよ３学年も総仕上げの時を迎えました。４月の進路希望調査では220名中４年制大学希望者が120名、専門学校、就職希望者がそれぞれ47名となっており、ここ数年では就職希望者が最も多い状況です。就職は依然として厳しい見通しが続いています。今後は、外部講師を迎えて求人票の見方や面接指導など具体的な就職活動についてのセミナーを予定しています。大学受験では数学・理科が新教育課程最初の入試を迎えるため、センター試験や２次入試問題の出題傾向の分析を進めていますが、昨年までと違うことに不安を抱いている生徒も多いようです。しかし、それは全国の高校３年生が抱えていることに変わりありません。その不安を乗り越えるには日々の授業、部活動を精一杯頑張り、自分に自信を持ち最後まで諦めない心を持ち続けることが大切です。まさに「継続は力なり」です。３学年教員団は生徒全員が希望する進路に進むことができるように、時には励まし、時には慰めながら頑張っていきたいと思っております。

Pick-up Topics 学校自慢 夢を叶えて卒業する作陽生！

作陽3年間の成果 進路決定おめでとう

（平成25年度卒業生　進学82%・就職18%）

筑波大学合格 内田好美

大阪教育大学合格 青木大峰

立命館大学合格 佐々木宏太

慶應義塾大学合格 野村智美

同志社大学合格 三浦　航

FC東京 平岡　翼

過去5年間の主な大学現役合格者数

国公立大学		私立大学			
大　阪	1	早稲田	1	同志社	3
筑　波	3	慶應義塾	1	立命館	7
鳥取(医)	1	明　治	5	関西学院	11
横浜国立	1	明治学院	1	関　西	13
大阪府立	1	中　央	1	京都産業	24
大阪教育	6	青山学院	3	近　畿	10
岡　山	6	日　本	6	甲　南	11
鳥　取	3	東　洋	5	龍　谷	12
香　川	2	駒　沢	5	京都女子	2
高　知	4	専　修	12	大阪経済	13
島　根	2	大東文化	3	関西外大	10
徳　島	1	東　海	6	佛　教	8
会　津	1	拓　殖	1	神戸学院	9
信　州	1	亜細亜	1	帝塚山	1
大　分	1	帝京	4	ノートルダム清心	5
宮　崎	1	国士舘	11	大阪体育	3
防衛大学校	7	日本体育	2	くらしき作陽	26
合　計	61名	合　計			796名

■新任教員のご紹介（大学・短期大学・附属幼稚園）

食文化学部
教　授　菊川忠裕

大学教員として、食文化学部・学科で策定された新たな目標に向かって、自身の改革を含めて、努力を続けて行きたいと思います。

食文化学部
専任教授　万倉三正

食品会社における実務経験を生かした教育研究を目指したいと思います。学んだことを自分自身の手で実社会で実現する日のために頑張りましょう。

食文化学部
専任講師　岩崎由香里

様々な分野の管理栄養士を経験しています。この経験を生かして、栄養士・栄養教諭の魅力をしっかり伝えていきたいです。

子ども教育学部
専任教授　八木義雄

関西から着任しました。美しいキャンパス、礼儀正しい学生、心地よい音楽、理想の学び舎を得て教育、研究に邁進していきたいと意気込んでいます。

子ども教育学部
専任教授　清水眞里子

保育士・幼稚園教諭を目指す学生に、現場の楽しさ厳しさを伝えます。そして、現場で通用する実践力が身に付くよう応援したいと思います。

子ども教育学部
専任教授　銀屋伸之

自然に囲まれた美しいキャンパス。明るい笑顔と気持ちのいい挨拶。特別支援教育の視点に立った未来の教師をめざす若者を応援していこうと思います。

子ども教育学部
准教授　渡邉亮太

障害児保育や家庭支援論を担当します。学生のみなさんや保育現場の先生方と楽しく頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

子ども教育学部
専任准教授　古埜弘子

はじめまして、私は幼稚園教育に携わってきた中で得た経験を、少しでも多くお伝えできるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

子ども教育学部
専任講師　浮田範子

長年勤務した保育園での経験を活かして、実践の中で一つでも多く伝え、保育士を目指す人を応援したいと思います。よろしくお願いします。

子ども教育学部
専任講師　松田真正

私の専門は、発達障害や自閉症圏内の子どもの教育です。全ての出来事にプラス面を見つけられる柔らかい心を目指し、学生と共に成長していきたいです。

幼稚園
教　諭　小野真穂

幼稚園の先生になることが、子どもの頃からの夢でした。子どもたちの笑顔の素になれるような先生を目指して頑張ります。どうぞよろしくお願いします。

幼稚園
教　諭　河合文菜

持ち前の元気・笑顔・明るさで、子どもと共に楽しい毎日を過ごしていきたいです。自然いっぱいの幼稚園で、笑顔の花を咲かせていきます。

■新任教員のご紹介（高校）

英語科
常勤講師　梶原麻優

３月に大学を卒業し、今年度より作陽高校でお世話になります。皆さんと楽しい時間を共有したいと思っています。よろしくお願いします。

国語科
常勤講師　田淵美彩

国語を通して〝知る〟楽しさを生徒たちに伝えていければと思います。みんなの力になれるよう日々自分を磨き努力していきます！

数学科
常勤講師　松岡綾香

故郷、奄美大島から岡山理科大学へ進学。縁があり作陽高校で教師になりました。数学の楽しさを少しでも伝えられるよう頑張っていきます。

保健体育科
常勤講師　菅野千尋

作陽高校、３年目。新たに常勤講師となりました。専門はバスケットボールです。生徒と共に成長できるよう日々努力していきたいと思っています。

理科
常勤講師　長瀬優志

教科は理科、部活は軟式野球です。実験を通して理科の魅力を伝えていきます。軟式野球は部員募集中です。一生懸命頑張りますので宜しくお願いします。

家庭科
常勤講師　室﨑有美

今年度から作陽高校で家庭科を担当いたします。家庭科は日常生活を豊かにするだけではなく、作陽で盛んなスポーツにも関わってくる教科です。生徒と共に学び、成長していきたいです。

音楽科
常勤講師　角南　透

音楽は人を成長させる大切なツールです。一期一会。日々生徒達との出会いを大切に、音楽を通して共に成長して行きたいと思います。

国語科
常勤講師　東　徹也

今年から作陽高校に加わりました国語科の東と申します。一年生の担任と野球部顧問をしています。生徒と共に頑張りますのでよろしくお願いします。

国語科
常勤講師　和田北斗

東京・神奈川での教員生活を経て、今年度より作陽高校でお世話になります。生徒たちの豊かな人間性と言葉の力を培える授業をしていきたいと思います。

■退職・退任された教員のご紹介（大学・高校）

大学	音楽学部	堀内　好浩	子ども教育学部	能登谷芳美	高校	保健体育科	村上　大介
	食文化学部	藤原　尚子	子ども教育学部	田村　周一		音楽科	豊田　恵里
	食文化学部	林原　克明	子ども教育学部	真鍋　　健		英語科	山本　立美
	食文化学部	金光　秀子				国語科	森田　信幸
	食文化学部	福元　隆浩	短大	短大音楽学科　濵﨑　明美		国語科	篠埜　温子
	子ども教育学部	梶　　正義		短大音楽学科　入江　洋文		家庭科	高橋　由佳

～更なる充実を目指して～

くらしき作陽大学
附属幼稚園
副園長
妹島三絵（せじまみえ）

くらしき作陽大学附属幼稚園は開園して２年目を迎えました。満開の桜の花が散らずに待ってくれていた４月10日、今年度も可愛い３歳児、４歳児が入園し、全園児が55名になり、園はより一層にぎやかに活気に満ちて参りました。

年中組の在園児たちは新入園児たちのお手本になろうと頼もしい先輩ぶりを発揮し、その成長ぶりには目を見張るものがあり、とても嬉しく微笑ましいかぎりでございます。

大学の広いキャンパスや周囲の山々の樹木が一斉に芽吹き、新緑に包まれた豊かな自然の中で御仏様に見守られながら、園児たちは「明るく、やさしく、たくましく」をモットーに毎日元気にのびのびと遊び、学んでいることに心から感謝でございます。

昨年度は在園児が３歳児のみで、園児たちのお手本となるべき４歳児と５歳児がおりませんでしたので、豊かな体験や他園との交流を深めるために津山の作陽保育園の園児たちと先生方が折に触れ来園してくださり、異年齢児との交流を通して園児たちは楽しく学ばせていただきました。そして、今年度も昨年度と同様に作陽保育園との交流を深め、７月の園児交流会、９月の運動会、11月の焼き芋会では作陽保育園の園児たちと異年齢児交流を実施し、楽しく有意義な時間を共有しながらご指導いただき学ばせていただきます。

また、今年度も附属幼稚園として大学との連携を更に深め、日本の将来を担う大切な子ども達が健康な体で豊かな感性としなやかな心を持って自然の摂理に合った生き方で歩んでいける様に教職員が心をひとつにし、和をもって共に成長出来る様に日々努力して参ります。

音楽学部との連携では、昨年度と同様に音楽学部の教授や学生、卒業生による正課でのバイオリンのレッスンを行い、丁寧にご指導いただいております。更に今年度からは４歳児の希望者には課外でのバイオリン教室も開講いたします。そして、音楽学部の学生や卒業生によるミニ演奏会を今年度も開催し、園児たちの素敵な感性と情操を育みながら、保護者の方々にも一緒に楽しんでいただけたらと考えています。

食文化学部との連携では、管理栄養士のご指導のもと園児や保護者にむけて様々な形で食育を行い、今年度も週３日、栄養バランスのとれた安全で安心な温かい手作りの給食を提供していただき、園児たちは美味しくいただいております。幼い園児たちがこれから先、豊かな心とたくましい体をつくりながら健全に成長していける様、食育を大切に実践して参ります。

子ども教育学部との連携も昨年度と同様に日常的に学生の自主実習や見学の受け入れを行い、教育者を目指す学生たちの学びと実践の場として相応しい園となるべく切磋琢磨して参ります。そして、今年度も子ども教育学部附属児童文化部“ぱれっと”の公演も行い、園児たちとの交流を深めながらお互いに楽しく学んでいきます。また、園の行事では子ども教育学部の学生ボランティアをお願いし、ご協力いただき助けていただいております。

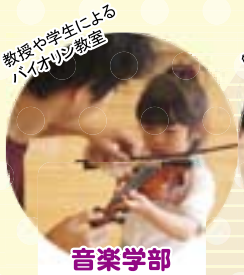
今年度も附属幼稚園が更に充実し、地域の皆様から愛される幼稚園に成長していける様、皆様方のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

作陽保育園との交流

元気いっぱい!
笑顔いっぱい!!
運動会

みんなで仲良く
遊んで!
園児交流会

くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学との連携



音楽学部

素敵な感性と情操を育む音楽教育

食文化学部

豊かな心とたくましくつく体をつくる食育

子ども教育学部

歌遊びや手遊びで楽しく学ぶ

入試

学生募集について

アドミッションセンター・入試広報室

今年の入試を振り返ると、来年度入試から数学と理科について新課程の内容になることもあり、現役で合格することが優先され大学・学部によっては競争率上昇の一因にもなったようである。特に、資格取得が可能な看護師養成などの医療系や幼児教育などの教育系は人気が高い状態が続いている。また、国公立大学の人気が根強いことや地元志向の傾向は相変わらずである。

そうした中で学部別にみていくと、音楽学部、短期大学ともに厳しい状態が続いている。教育内容の更なる充実や、学部、学生、同窓会、事務局あげての演奏会をはじめ種々の情報発信や出前講座など絶えることのない募集活動にもかかわらず目に見える成果となってはいない。とはいえ、中長期的な視点に立ち、工夫を重ねながら今後も継続して取り組むことが肝要であろう。

食文化学部については、管理栄養士養成の栄養学科と、現代食文化学科の食と健康コースは好調であるが、フードコーディネートコースについては厳しい状態が続いている。県東部からも受験、入学が増えるなど食文化学部だけではないが高い評価をいただいている。それぞれのコースの魅力やよさをより一層伝えるべく努力を続ける必要があろう。

子ども教育学部については、上述したように志願者が増加する中、特に保・幼コースに最も受験生が集まった。岡山県においては大学、短大、専門学校等多くの選択肢がある中、本学に多くの受験生が来たが、子細に見ていくと１人で複数回の受験をするなど、他大学との併願も含めて実人数は倍率ほど高くないことが見てとれる。小・特コースも県外を含めて例年並みの受験者数だった。

今年１年高校訪問してみて、きちんと本学を評価し、生徒の進路指導を丁寧に、誠実に行う先生方に数多く出会うことができた。その先生方や生徒、保護者の方々に信頼される、そして魅力ある大学としてたゆまぬ努力を続けていきたい。

同窓生の皆様へ

卒業生の子の入学金減免制度のご案内

平成21年４月より、同窓生のお子様が本学に入学する場合、次のような優遇制度が設けられました。

入学優遇制度

本大学・短大の卒業生のお子様が本学に入学した場合、入学後、入学金相当額を給付いたします。

◆音楽学部［モスクワ音楽院特別演奏コース／演奏芸術コース：35万円］［教育文化コース：25万円］
◆食文化学部・子ども教育学部：25万円
◆短期大学［音楽専攻：30万円］［幼児教育専攻：25万円］

（ただし、特待生制度との併用はできませんが、特待生に選考された場合、特待生または本減免のどちらかのみを選ぶことができます。）

くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学の教育目的

● くらしき作陽大学 の目的

本学は、大乗仏教に基づく宗教的情操教育により豊かな人間性を涵養するという建学の精神に則り、広く知識を授け深く専門の学芸を教授研究して、心豊かに生きいきと生きる職業人を育成し、学術の中心として社会の発展に寄与することを目的とする。

【音楽学部の目的】

音楽学部は、建学の精神に基づく人間教育のもとに、音楽に関する質の高い専門性を身につけた心豊かに生きいきと生きる職業人を養成するとともに、国際的な音楽文化の教育研究拠点として地域に貢献することを目的とする。

・音楽学科の目的：国際的な音楽文化の教育研究を通して、音楽に関する豊かな感性と高度な技術とともに、社会性ある音楽家を養成する。

【食文化学部の目的】

食文化学部は、建学の精神に基づく人間教育のもとに、食に関する質の高い専門性を身につけた心豊かに生きいきと生きる職業人を養成するとともに、食文化の教育研究拠点として地域に貢献することを目的とする。

・現代食文化学科の目的：食に関する教育研究を通して、食を総合的に学修した食文化に強い心豊かな栄養士ならびに教員等を養成する。
・栄養学科の目的：食と健康に関する教育研究を通して、健全な未来社会を築くために貢献できる心豊かな管理栄養士を養成する。

【子ども教育学部の目的】

子ども教育学部は、建学の精神に基づく人間教育のもとに、保育と教育及び子育て支援に関する質の高い専門性を身につけた心豊かに生きいきと生きる職業人を養成するとともに、保育と教育及び子育て支援の教育研究拠点として地域に貢献することを目的とする。

・子ども教育学科の目的：保育と教育、子育て支援に関する教育研究を通して、現代の保育・教育現場に求められる高度な専門性と実践力を持った、心豊かな保育・教育等に従事する人材を養成する。

【大学院音楽研究科の目的】

広い視野に立って音楽に関する清深な学識を授け、地域の音楽文化の向上に貢献することのできる高度な専門性を有する人材を養成することを目的とする。

● 作陽音楽短期大学 の目的

本学は、大乗仏教に基づく宗教的情操教育により豊かな人間性を涵養するという建学の精神に則り、深く専門の学芸を教授研究して、心豊かに生きいきと生きる職業人を育成し、学術の中心として社会の発展に寄与することを目的とする。

【音楽学科の目的】

音楽学科は、建学の精神に基づく人間教育のもと、音楽に関する豊かな感性と専門性を持って地域の文化や教育の向上のため心豊かに生きいきと生きる職業人を養成する。

鶴声会だより

鶴声会近況報告

鶴声会会長 井端 豊実

今年度、鶴声会総会を平成26年10月にくらしき作陽大学のキャンパスを会場として開催します。総会に併せて、毎回工夫を凝らしたイベントや講演などを開催していますが、今回も音楽学部より演奏会、食文化学部より健康に関する講演、子ども教育学部よりイベントを計画したいと考えております。音楽学部卒業の皆様には多数ご参加していただいておりますが、食文化学部、子ども教育学部を卒業された皆様も是非この機会にご参加いただき、交流を通してさらに深く卒業生としての絆を築いていただければと思います。なお、案内につきましては７月には皆様のお手元にお届けしたいと思います。どうか万障お繰り合わせの上、多くのご参加をお待ちしております。

各地の同窓会におかれましても活発な活動が行われています。鹿児島県支部ではスプリングコンサート、愛媛県支部総会、関西支部総会、高知県支部総会、山口県支部総会などいずれのイベントも恒例となっています。また、大学と連携しての吹奏楽クリニックも今年は高知県、香川県、鳥取県で実施されると伺っております。昨年度は沖縄県支部総会も開催され、沖縄県においても作陽の精神が根付いていることを感じました。皆様の地域におかれましても積極的に同窓会活動にご参加いただけますようお願い致します。

最後に、10月に倉敷の地でお会いできますことを楽しみにしております。元気でお過ごし下さい。

翠会だより

会長就任のご挨拶

翠会会長 元吉 恵子

翠会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝でご活躍の事と拝察いたします。

昨年11月開催の総会で承認を頂き、石原会長の後を受けて会長を務めさせていただくことになりました、音楽科３期卒業の元吉恵子と申します。会員約11,760名を超える翠会、そして歴代会長が築かれました伝統と歴史を考えますとその責務の重さに身の引き締まる思いが致します。

また、私学、特に地方の短期大学を取り巻く環境は非常に厳しい状況でございます。

そんな中、翠会といたしましては、引き続き、同窓生の足もとを照らし、同窓会の役割を果たす事が出来れば、作陽の発展に少しでも寄与できるものと考えております。今年度は、島根県支部総会（７月６日）開催のご案内をいただいており、同窓会の本来の目的である会員相互の交流と親睦を図り、諸先輩方のネットワークを若い同窓生の為に集約できれば新たな道が開け、同窓会活動の活性化へつながるものと思っております。

最後になりますが、４期８年間という長きにわたり、会長としてご尽力くださいました石原昌子前会長に感謝の意を表しますと共に、会員の皆様のより一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

作陽高校同窓会だより

松田藤子先生生誕115周年　藤子先生は生きている

高校同窓会副会長 山下 亨

母なる学校・岡山県作陽高等学校の今年の同窓会は８月16日㈯に鶴山ホテルにて開催されます。今年は、松田藤子先生の生誕115周年の節目に当たりますので、会場では松田藤子先生の写真展も併せて行う予定です。

さて、松田藤子先生は昭和47年３月に母校の校長を退任され平成元年10月にお亡くなりになりましたが、『創立者松田藤子先生の教え－智慧と慈悲の教育－』の文集中随所にみられるように、釈尊と同様、藤子先生は生きておられます。

仏教の祖・釈尊は西暦前483年にヒマラヤの南麓に住むサキヤ族の一員として生まれ80歳で亡くなった実在の人物です。一人の人間として生まれ女性を愛し結婚し子どもをもち、人生に悩み苦しみ、ときに喜びのあまり大声をあげ愛と憎しみにもだえたことのある生々しい人間でした。が、29歳で出家し35歳で人間の苦しみを絶滅する「真理」を発見して「悟れる人（ブッダ）」になりました。その教えは「生きがい」の教えです。

一方、作陽学園の創立者・松田藤子先生は明治32年５月２日に鹿児島県の岩川村に松田家の長女として生を受け「お念仏の子守歌」で育ち、長じて神戸・東京への遊学中にはキリスト教にも関心を持つなど宗教的な苦悶の生活を送られました。平野覚性師や住岡夜晃師との出会いにより大乗仏教の教義の研究に打ち込まれ、結婚後は教師の道を進まれ教頭を務められたあと、大乗仏教を建学の精神とする津山女子高等技芸学院を創立されました。先生は38歳で得度を受けておられますが、最愛の母や恩師との別れ、三度の校舎水害、帝王切開での出産、学園経営危機など、普通の人と同様の苦難に数多く遭遇され乗り越えてゆかれましたから、釈尊と同様に深く社会と人生をみてこられたのです。学園創立以来みずから釈尊、聖徳太子、親鸞聖人、住岡夜晃師など多くの聖賢の教えを説諭され、その宗教講話を学んだ２万数千人の教え子の人生に今も大きな影響を与え続けております。藤子先生の真実愛の教えは、釈尊と同様に神秘性も抹香臭さもオカルト的な匂いもありません。現実的で実際的であり奇蹟もありません。

藤子先生は生きておられます。高校同窓会は、卒業生たちが人生行路の指針としてきた藤子先生の教え（法灯）が消されないよう母校に対して一層の努力をお願いするものであります。

平成25年度決算について

平成25年度決算の概要は以下のとおりです。この決算は、5月20日に行なわれた理事会・評議員会の承認を受けたものです。

資金収支計算書

【収入の部】 （単位：百万円）

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	2,200	2,203	△3
手数料収入	33	33	0
寄付金収入	101	105	△4
補助金収入	448	470	△22
資産運用収入	43	48	△5
資産売却収入	200	100	100
事業収入	84	74	10
雑収入	109	113	△4
前受金収入	418	376	42
その他の収入	139	128	11
資金収入調整勘定	△477	△523	46
前年度繰越支払資金	3,337	3,337	0
収入の部合計	6,636	6,463	173

学生生徒等納付金収入は、入学金を含む授業料などの学費収入です。

資産売却収入は、固定資産等の売却による収入をいい、不動産、有価証券などの売却による収入が代表的なものとしてあげられます。

雑収入には学納金から事業収入までの収入科目に含まれない収入で、かつ帰属収入となる収入が記載されます。年度によって異なりますが、退職交付金はその中でも大きなウエイトを占めることがあります。

前受金収入は、翌年度以降の諸活動に対応する資金を受け入れた場合に生ずる科目で、一般的には翌年度入学生にかかる学生生徒等納付金収入などが代表的なものです。

固定資産取得のための引当特定預金から取り崩した繰入収入の他、貸付金回収収入、預り金受入収入等、帰属収入の性質をもたない収入を計上するものです。

資金収入調整勘定は、期末における未収入金の計上、また前年度で前受金とした当該年度に属する学費収入等を学生生徒等納付金収入として計上するための減算科目です。

【支出の部】 （単位：百万円）

科目	予算	決算	差異
人件費支出	1,664	1,671	△7
教育研究経費支出	593	496	97
管理経費支出	238	207	31
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	0	13	△13
設備関係支出	43	79	△36
資産運用支出	200	13	187
その他の支出	169	175	△6
[予備費]	3	0	3
資金支出調整勘定	△116	△101	△15
次年度繰越支払資金	3,842	3,911	△69
支出の部合計	6,636	6,463	173

教育研究経費支出とは、教育研究に直接に要する経費のことをいい、光熱水費をはじめ研究費、奨学費、入学試験にかかる経費もこの中に含まれます。

管理経費支出は、教育研究活動に間接的に要する経費で、一般経費のほかに役員会、法人業務、教職員の福利厚生費、学生募集経費、食堂の経費などが加わります。

施設関係支出とは、土地、建物、構築物といった固定資産取得のための支出です。

設備関係支出とは、教育研究用の機器備品、その他の機器備品、図書、車輌といった固定資産取得のための支出です。

前年度中の活動に係る支出のうち、当該年度に支払われた前期末未払金支払支出の他、前払金支払支出などがあります。

資金支出調整勘定とは、当該年度中に支払うべき支出であるが、支払いが次年度になる期末未払金や、前年度に支払いを済ませた当該年度の支出を減算することにより支出額を調整するものです。

≪資金収支の概要≫

収入の大部分を占める学生生徒等納付金収入は予算比300万円増収の22億300万円、寄付金収入は予算比400万円増収の1億500万円、補助金収入は予算比2,200万円増収の4億7,000万円となりました。

一方、主な支出については人件費支出が予算比700万円増額の16億7,100万円、教育研究経費支出が予算比9,700万円減額の4億9,600万円、管理経費支出が予算比3,100万円減額の2億700万円、施設関係支出が予算比1,300万円増額の1,300万円、設備関係支出が予算比3,600万円増額の7,900万円となりました。

消費収支計算書

【消費収入の部】 （単位：百万円）

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	2,200	2,203	△3
手数料	33	33	0
寄付金	104	107	△3
補助金	448	470	△22
資産運用収入	43	40	3
事業収入	84	74	10
雑収入	110	113	△3
帰属収入合計	3,022	3,039	△17
基本金組入額合計	△43	△40	△3
消費収入の部合計	2,979	2,999	△20

学生生徒等納付金とは、授業料、入学金、教育運営費、実験実習費等の学費収入です。

手数料は、入学検定料、試験料、証明手数料とセンター試験の実施手数料が主なものです。

寄付金には、資金収入の寄付金だけではなく、現物寄付金が含まれます。

補助金は、国庫補助金、地方公共団体補助金が中心です。

帰属収入とは、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金などの負債とならない法人に帰属する収入のことです。

学校が教育研究活動を行なうためには、校地、校舎、機器備品、図書などの資産を持ち、維持する必要があり、学校会計では、これらの教育研究活動に必要な資産を取得するために、帰属収入から充てた金額をもって、維持すべき資産等の金額としています。これが基本金組入額と呼ばれているものです。

【消費支出の部】 （単位：百万円）

科目	予算	決算	差異
人件費	1,653	1,650	3
教育研究経費	870	747	123
管理経費	276	240	36
借入金等利息	0	0	0
資産処分差額	0	5	△5
徴収不能引当金繰入額	1	4	△3
徴収不能額	0	0	0
[予備費]	3	0	3
消費支出の部合計	2,804	2,646	158
当年度消費収入超過額	174	352	
前年度繰越消費支出超過額	1,631	1,631	
基本金取崩額	0	1,192	
翌年度繰越消費支出超過額	1,457	87	

人件費は、教員人件費、職員人件費、退職給与引当金繰入額などです。

教育研究経費は、教育研究活動に必要な消耗品、旅費交通費、光熱水費などのすべての経費です。

管理経費は、教育研究の諸活動に間接的に必要な消耗品等の経費です。

基本金取崩額は保有する必要がなくなった対象資産の基本金への組入額を除却等により取り崩す額です。

≪消費収支の概要≫

収入については大部分を占める学生生徒等納付金、寄付金、補助金の合計が予算比2,800万円増収となっており、帰属収入合計は予算比1,700万円増収の30億3,900万円となりました。また、基本金組入額合計が予算比300万円減少となった結果、消費収入合計は予算比2,000万円増収の29億9,900万円となりました。

一方、支出については大部分を占める人件費、教育研究経費、管理経費の合計が予算比1億6,200万円減少して26億3,700万円となりました。消費支出合計では予算比1億5,800万円減少して26億4,600万円となりました。

この結果、当年度は3億5,200万円の消費収入超過となりました。

また、翌年度繰越消費支出超過額は基本金の取崩等により8,700万円となりました。

貸借対照表

【資産の部】 （単位：百万円）

科目	平成25年度末	平成24年度末	増減
固定資産	19,329	19,622	△293
有形固定資産	16,084	16,276	△192
土地	5,733	5,731	2
建物	9,403	9,250	153
構築物	105	50	55
教育研究用機器備品	131	106	25
その他の機器備品	14	9	5
図書	685	679	6
車輌	6	0	6
建設仮勘定	9	452	△443
その他の固定資産	3,245	3,345	△100
流動資産	4,056	3,470	586
資産の部合計	23,385	23,091	294

【負債の部】 （単位：百万円）

科目	平成25年度末	平成24年度末	増減
固定負債	630	652	△22
流動負債	488	565	△77
負債の部合計	1,118	1,217	△99

【基本金の部】 （単位：百万円）

科目	平成25年度末	平成24年度末	増減
第1号基本金	21,962	23,113	△1,151
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	167	167	0
第4号基本金	225	225	0
基本金の部合計	22,354	23,505	△1,151

【消費収支差額の部】 （単位：百万円）

科目	平成25年度末	平成24年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額	87	1,631	△1,544
消費収支差額の部合計	△87	△1,631	1,544

【負債の部、基本金の部および消費収支差額の部合計】 （単位：百万円）

科目	平成25年度末	平成24年度末	増減
負債の部、基本金の部および消費収支差額の部合計	23,385	23,091	294

≪貸借対照表の概要≫

（資産について）土地、建物、構築物、教育研究用機器備品、その他の機器備品、図書の増加にはくらしき作陽大学附属幼稚園開園に係る資産が含まれています。建設仮勘定の減少はくらしき作陽大学附属幼稚園開園に伴う建物等の対象資産への振替によるものです。
流動資産の増加は、未収入金、現金預金の増加等によるものです。

（負債について）流動負債の減少は未払金の減少等によるものです。

（基本金について）減少の主因は、基本金の取崩によるものです。

（消費収支差額について）前年度までの消費支出超過額に今年度の消費収入超過額3億5,200万円（今年度消費収支差額）及び基本金取崩額11億9,200万円が加わりました。

※ 表示された数値以下の端数は個々に四捨五入してあるので、合計欄の数値と一致しない場合があります。

演奏会・公開講座等のご案内

Kurashiki Sakuyo University Faculty of Music The Department of Music / The Department of Music Education
Sakuyo Junior College of Music The Department of Music

7月 July 2014

7日(月) 〈開演〉18:30
第22回作陽Trbアンサンブルサマーコンサート
■Trb専攻生によるサマーコンサート
■会場：野外音楽堂 ■入場料：無料

13日(日) 〈開演〉14:00
作陽JWAこども吹奏楽団 第5回定期演奏会
■マーチ「士官候補生」、あまちゃん、追憶のテーマ(T.Saxソロ)、テキーラ、キッズコーナー 他
■会場：藤花楽堂 ■入場料：300円（当日：500円）

15日(火) 〈開演〉19:00
第2回作陽弦楽合奏団定期演奏会
■作陽弦楽合奏団による第2回定期演奏会
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

16日(水) 〈開演〉18:45
モスクワ音楽院特別演奏コース学内公開演奏会Ⅱ
■音楽学部モスクワ音楽院特別演奏コースの学生による演奏会
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

16日(水) 〈開演〉18:45
ピアノ伴奏演習前期発表会
■ピアノ伴奏法履修生によるアンサンブルやソリストとの共演
■会場：1号館125室 ■入場料：無料

21日(月) 〈開演〉18:45
室内楽（Pf デュオ）研究発表会
■室内楽履修者によるピアノデュオコンサート
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

23日(水) 〈開演〉19:00
2014作陽ファカルティコンサートⅢ 第37回「作品の夕べ」
■本学作曲理論担当教員による作品発表
■会場：藤花楽堂
■入場料：一般：2,000円（当日：2,500円）、高校生以下：無料

25日(金) 〈開演〉18:45
室内楽(Pf)研究発表会「MILESTONE CONCERT Ver.夏」
■室内楽履修者によるピアノコンサート
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

28日(月) 〈開演〉18:45
前期オペラ演習発表会
■オペラ演習履修生によるオペラハイライト演奏会
「ドン・ジョバンニ」「カヴァレリア・ルスティカーナ」
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

8月 August 2014

2日(土) 〈開演〉10:00
作陽音楽短期大学 公開講座〈要申込〉
■ピアノ講座「幼少期に取り組むピアノ曲の提案♪」(居川寛子講師)、音楽講座「フランツ・リストの華麗で地味？な音楽人生」(重利和徳助教)の2講座を開講 ※両講座とも社会人対象
■会場：1号館 ■受講料：1,000円

5日(火) 〈開演〉13:30
大学院サマーコンサート
■大学院生によるサマーコンサート
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

6日(水) 〈開演〉18:45
ヴォーカル・サマーコンサート
■声楽専修の学部生、短大生によるサマーコンサート
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

23日(土) 〈開演〉14:00
作陽音楽短期大学 公開講座〈要申込〉
■ピアノ講座「幼少期に取り組むピアノ曲の提案♪」(居川寛子講師)、音楽講座「フランツ・リストの華麗で地味？な音楽人生」(重利和徳助教)の2講座を開講 ※両講座とも社会人対象
■会場：1号館 ■受講料：1,000円

30日(土) 〈開演〉14:00
第3回サクソフォーンアンサンブル サマーコンサート
■ポップスなど肩のこらない選曲でリラックスした雰囲気の演奏会
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

9月 September 2014

21日(日) 〈開演〉15:00
第25回作陽ウインドアンサンブル定期演奏会
■結成25年目を迎える老舗サークルによる定期演奏会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：500円

26日(金) 〈開演〉19:00
2014作陽ファカルティコンサートⅣ 居川寛子 ピアノリサイタル
■居川寛子講師によるピアノリサイタル
■L.vベートーヴェン／創作主題による32の変奏曲、C.ツェルニー／二手のためのソナタ 作品7 変イ長調
■会場：藤花楽堂
■入場料：一般：2,000円（当日：2,500円） 高校生以下：無料

28日(日) 〈開演〉14:00
東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、岡山県立岡山城東高等学校、くらしき作陽大学 交流演奏会
■東京藝術大学附属高等学校、岡山県立岡山城東高等学校、くらしき作陽大学による合同演奏会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：無料

10月 October 2014

1日(水) 〈開演〉18:45
平成26年度特待生演奏会（1、2年生）
■平成26年度特待生（1、2年生）による演奏会
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

8日(水) 〈開演〉18:45
平成26年度特待生演奏会（3、4年生）&コンクール入賞者コンサート
■平成26年度特待生（3、4年生）およびコンクール入賞者による演奏会
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

18日(土) 〈開演〉14:00
第47回くらしき作陽大学管弦楽団定期演奏会
■モーツァルト／交響曲第31番「パリ」、ドヴォルザーク／交響曲 第9番「新世界」、モーツァルト／ヴァイオリンとオーケストラのためのアダージョとロンド
■会場：藤花楽堂
■入場料：一般：2,000円（当日：2,500円）
学生：1,000円（当日1,500円）

11月 November 2014

9日(土) 〈開演〉13:30
第29回サクソフォーン・オーケストラ演奏会
■ソプラニーノからバスまで6種類のサクソフォンによるオーケストラ演奏会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：500円

15日(土) 〈開演〉13:30
EARNEST Concert
■ピアノ独奏・2台ピアノ連弾、管楽器等による多彩な演奏会
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

16日(日) 〈開演〉13:30
EARNEST Concert
■ピアノ独奏・管楽器等による多彩な演奏会
■会場：1-125 ■入場料：無料

16日(日) 〈開演〉14:30
吹奏楽（教育系）研究発表会&Drum&Brass Corps "MUSICA" 研究発表会
■吹奏楽履修者で指導者を目指す学生による吹奏楽研究発表会および吹奏楽指導専修を中心に構成されたマーチングバンドの研究発表会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：500円

19日(水) 〈開演〉18:45
モスクワ音楽院特別演奏コース学内公開演奏会Ⅲ
■音楽学部モスクワ音楽院特別演奏コースの学生による演奏会
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

22日(土) 〈開演〉14:00
第27回さくよう歌舞座
■箏・三絃による演奏会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：500円

23日(日) 〈開演〉13:00
Jardin du son ～音の庭～
■ピアノ独奏を中心に声楽、管楽器による演奏会
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

29日(土) 〈開演〉未定
吹奏楽（演奏系）研究発表会
■本学吹奏楽関係団体による研究発表会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：未定

30日(日) 〈開演〉14:00
作陽ファカルティコンサートⅤ 森悠子 ヴァイオリンの調べ
■森悠子教授によるヴァイオリンコンサート
■会場：藤花楽堂
■入場料：一般：2,000円（当日：2,500円） 高校生以下：無料

倉敷館コンサート

●開催日 5月～7月、10月～12月の毎週木曜日
●時 間 18:30～19:00(5～7月)、18:00～18:30(10月～12月)
●会 場 倉敷美観地区内【倉敷館】
●入場料 無料(予約不要)
●内 容 本学学生、教員による美観地区での夜間コンサート

都合により日程、出演者等、内容が変更になる場合がございます。
最新情報はお電話又は大学ホームページにてご確認下さい。

《お問い合わせ先》
くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学
演奏芸術センター086-523-0822 FAX.086-436-0283
〒710-0292 岡山県倉敷市玉島長尾3515 E-mail sakuyo.kikaku@ksu.ac.jp
http://www.ksu.ac.jp/

くらしき作陽大学 検索

メールマガジン配信開始！
くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学の演奏会・公開講座等の最新のイベント情報やお得な情報をいち早くお届けします。
QRコードで簡単登録！
SAKUYOメルマガ会員募集中
PCからはこちら！▶ https://j.blayn.jp/bm/p/f/tf.php?id=sakuyokikaku

◎ 気になる施設の見学や体験授業で、大学の雰囲気を知るチャンス

Open Campus 2014 要予約

7/27［日］ **8/24**［日］ **9/14**［日］

11:00〜15:00（受付10:30〜）

2015 春のオープンキャンパス **3/25**［水］

13:00〜16:00（受付12:30〜）

JR新倉敷駅北口より無料送迎バスを随時運行します。

◎ 音大入試の傾向と対策を指導

作陽音楽講習会 要予約 要参加費

夏 期	秋 期	冬 期
7/19［土］・20［日］	9/13［土］・14［日］	12/13［土］・14［日］

［対象］中学生以上　［会場］くらしき作陽大学／作陽音楽短期大学

資料請求お申し込みは

フリーアクセスで申し込む **0120-911-394**

Eメールで申し込む **nyushi.sakuyo@ksu.ac.jp**

ホームページから申し込む　くらしき作陽大学　検索

くらしき作陽大学　作陽音楽短期大学

2014 SAKUYO OPEN SCHOOL 授業・学校見学 随時公開中

第1回 −体験−
講座体験
部活動体験
7／26（土）

第2回 −説明−
コース説明
入試説明会
10／26（日）

第3回 −準備−
入試問題対策
面接対策講座
11／23（日）

講習会 −吹奏楽部・音楽デザイン−
6／21（土）

清陵祭 -文化の部-
個別進学相談
9／7（日）

清陵祭 -体育の部-
9／11（木）

作陽1次入試　平成27年2月3日（火）　合格発表日　平成27年2月9日（月）

岡山県作陽高等学校

0868-23-2188
sakuyo@sakuyo-h.ed.jp
http://sakuyo-h.ed.jp

学園報に関するお問い合わせは
作陽学園事務局
学園報担当（企画係）
〒710-0292　岡山県倉敷市玉島長尾3515
tel 086-523-0822／fax 086-436-0283
Eメール sakuyo.kikaku@ksu.ac.jp